

チヨークアーティスト、大原さん

塗り絵でストレス発散

疫病退治を妖怪アマビエ



大原さんのオリジナルの妖怪・アマビエ

に願いを込め、隠岐の島にオブジェを作り、展示した。

これをヒントに大原さんは新型コロナウイルスという疫病を塗り絵で退散させようと、オリジナルな妖怪アマビエを描いた。

元祖アマビエを参考にし、それよりも可愛く、3本足で安定した状態で波に揺られている、子どもにも親しまれる妖怪像を創作し、ロビーナの受講者の人たちにチヨークや色鉛筆で、アマビエを色づけしてもらい、十人十色の妖怪を描き出し、自分の御守りにしている。

新型疫病、コロナウイルスを退治する願いとともに、ストレス発散にも一役買い、好評だったのも、大原さんは自身のホームページのブログに掲載。無料でダウンロード、印刷でき、多くの人に妖怪アマビエの塗り絵を楽しんでもらっている。

大原さんは「学校が休みで親子でアマビエの塗り絵をしている家庭や、老人ホームのおじいちゃんやおばあちゃんが色を付け、自分なりの妖怪を作り、早く疫病がすたるよう願っている反応があります。嬉しく思っています。外に出かける機会が少なくなったら今、ストレス発散に塗り絵を楽しんでいただければ幸いです」と話していました。

「半田元成」

新しい疫病ともいうべきコロナウイルスを江戸時代の妖怪アマビエ

エで退散させようと、インターネット上で無料の塗り絵をはじめ、ストレス解消にもなる」と好評を得ている。

向東町彦ノ上、チヨークアーティスト、大原郁香さん(32)が主宰しているチヨークアート教室ロビーナの受講生から聴いた、水木しげるロードのゴール、島根県隠岐の島にあるアマビエのオブジェからヒントを得て、塗り絵を企画した。アマビエは江戸時代、「病気が流行ったら、私の写し絵を早々に人々に見せよ」と言い残し海中に姿を消した妖怪だと言われ、ウロコのある体と長い毛とくちばしが特徴。

「ゲゲゲの鬼太郎」などでおなじみの漫画家・水木しげるさんは、この妖怪・アマビエが疫病を退治する伝説